

各 位

2022 年 3 月 24 日

ダイビル株式会社

当社全保有ビルにおけるCO₂フリー電力の導入完了について

～ 脱炭素社会の実現に向けた取り組みを着実に推進 ～

ダイビル株式会社（大阪市北区、代表取締役社長執行役員 園部俊行）は、2021 年 10 月 29 日付リリースにてお知らせいたしました通り、国内に保有するすべてのビル^{※1}への CO₂ フリー電力^{※2}導入を決定し、その後順次切り替えを進めてまいりましたが、2022 年 4 月をもって全面的に切り替えを完了することとなりましたのでお知らせいたします。CO₂ フリー電力の導入時期と CO₂ 排出量削減効果等は以下の通りです。

導入開始	対象ビル	年間電力量 (百万 kWh/年)	CO ₂ 排出量 削減効果 ^{※3} (万 t-CO ₂ /年)	一般家庭換算 (千世帯)
2021 年 12 月	・ダイビル本館 ・中之島ダイビル ・新ダイビル ・梅田ダイビル	30	1.0	6
2022 年 4 月	・日比谷ダイビル ・秋葉原ダイビル ・商船三井ビルディング（虎ノ門ダイビル） ・青山ライズスクエア	18	0.8	5
2022 年 4 月 (今回追加決定)	・土佐堀ダイビル ・淀屋橋ダイビル ・淡路町ダイビル ・堂北ダイビル ・北梅田ダイビル ・麴町ダイビル ・芝ダイビル ・内幸町ダイビル ・三田日東ダイビル ・エステート芝 ・BiTO AKIBA ・BiTO AKIBA Plaza	19	0.7	4
合計 20 棟（大阪 9 棟、東京 11 棟）		67	2.6	14

当社が導入する CO₂ フリー電力は RE100 対応の非化石証書付電力（トラッキング付）^{※4}であり、導入が完了したビルのテナント様は、そのオフィスや店舗等で使用する電力の CO₂ 排出量 がゼロになるため、環境面で企業評価の向上につながります。

当社グループは「グループ行動規準」に「環境問題への取組」を掲げ、これまでも省エネルギーやリサイクルの推進など積極的に取り組んでまいりましたが、使用電力の CO₂ フリー化をあわせ、今後も脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

なお、当社グループのマテリアリティについては [こちら](#) をご参照ください。

■ この取り組みに対応する SDGs



- ※1 建て替えを予定しているビルおよび当社が電力需給契約を締結していないビルを除く。
- ※2 非化石証書の使用により、実質的に再生可能エネルギー由来の電力。
- ※3 対象ビルで 2019 年度に使用した電気使用量の総量を基に試算。
- ※4 発電場所のトラッキング情報を追加した非化石証書を活用した電力。

以 上